

東京都獣医師会
学校飼育動物
獣医師養成講座

ウサギについて

2021年7月18日

田向健一
田園調布動物病院



1

分類

綱：哺乳綱
目：ウサギ目（重歯目）
科：ウサギ科
属：アナウサギ属
種：アナウサギ
カイウサギ



2

特徴

- 夜行性
- 18～23℃が飼育適温
- 寿命7～8歳。稀に10歳以上
- 性成熟：3～6ヶ月
- 成長終了：4～8ヶ月



3

繁殖

- 月に数回1～2日の発情休止期
- 交尾排卵（交尾後10時間）
- 妊娠期間：29～35日
- 授乳は一日一回夜間に（仔ウサギの体重20%）



週令	猫ミルク
新生児	5ml
1週	12～15ml
2週	25～27ml
3週	30ml

これに乳酸菌を少量混ぜる

- 生後10日まで哺乳、15日から少量の固形飼料
20日に食糞行動開始、28日程度で離乳



4

妊娠診断

- 交配後10-12日目以降で胎仔が触知
- 超音波検査では9日以降
- X線検査では20日以降に胎仔の骨格が確認。
- 妊娠末期には腹部膨満になり、乳腺も発達する。



5

ウサギの診療

ウサギが感じるストレス
不適切な飼育、不慣れな環境
移動
捕食者との遭遇、臭い
疼痛、疾患
保定
ペインコントロール
最小限のエリザベスカラーやカテーテル設置



6

保定

- バスタオルの使用



7

保定



8

フットボールホールド



9

臨床手技(採血)

- ・全血量は体重の5.5-7%
- ・安全な採血量6.5-10.0ml/kg

採血部位

- ・耳介(耳介動静脈中間枝)
- ・外側伏在静脈
- ・橈側皮静脈

10

耳介の血管



- 耳介動脈中間枝
- 後耳介静脈中間枝
- 後耳介静脈

11

耳介からの採血



12

外側伏在静脈



13

外側伏在静脈



14

皮下補液

- 肩甲骨間
- 左右臀部
- 乳酸リンゲル30-50ml/kg
- 起炎性薬剤注意 (ニューキノロン系)



15

ウサギへの抗生物質

原則的に経口投与は避けるべき抗生物質 (腸性毒血症の誘発)

グラム陽性細菌を標的とする薬剤	グラム陰性嫌気性菌を標的とする薬剤
・リンコマイシン	・アンピシリン
・クリンダマイシン	・アモキシシリン
・エリスロマイシン	・セファロスポリン
・セファロスポリン	・ペニシリン

ウサギに対して安全と考えられている抗生物質

トリメトプリム-サルファ剤
ニューキノロン系
クロラムフェニコール
テトラサイクリン系

16

学校飼育動物で押さえておきたい ウサギの病気3選

胃腸疾患
歯牙疾患
生殖器疾患

17

主訴

- 食欲がありません
- ウンチが小さくなりました
- ウンチがつながってます
- ウンチがでません...



全て毛球症ですか？
プリンペランでいいですか？

胃腸の病気 \neq 毛球症

18

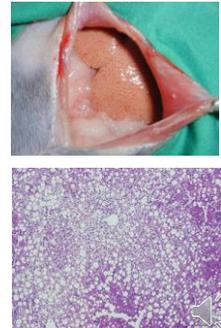
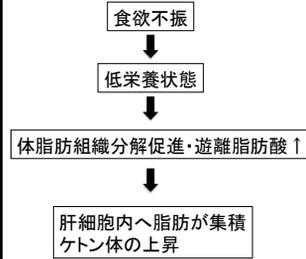
胃潰瘍

平常時の胃内pH1~2
長期絶食による胃潰瘍



19

肝リピドーシス



20

うさぎの消化器疾患診断アプローチ

- 主訴 ・食欲低下 急性
慢性
- ・排便の有無
 - ・活動性
- 身体検査 ・口腔内検査
・腹部触診
- X線検査 ・消化管内
- 血液検査 ・臨床経過に応じて

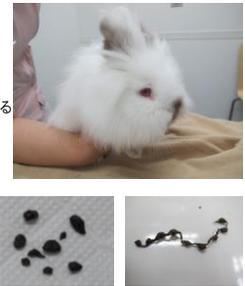
21

症例1

主訴：だんだんと摂食量の減少
便が小さい、少ない、つながっている
元気はそこそこあります

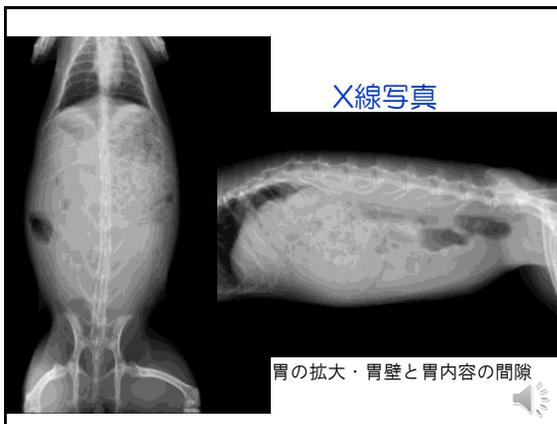
一般身体検査

口腔内検査：切歯、臼歯とも問題なし
腹部触診：上腹部にパン生地様塊



22

X線写真



胃の拡大・胃壁と胃内容の間隙

23

慢性胃腸うっ滞

- ✓食物繊維不足、高タンパク、高炭水化物による胃腸の異常発酵
- ✓ストレス
- ✓運動不足？

24

治療

慢性的な胃腸機能低下による食滯
水および胃腸蠕動運動亢進を中心とした治療

処方例

- ✓ 乳酸リンゲル 50-80ml/kg
- ✓ モサプリド 1-3mg/kg
- ✓ メトクロプラミド 0.5mg/kg
- ✓ ファモチジン 1mg/kg
- ✓ 適度な運動
- ✓ 強制給餌



25

胃内容

- ほとんどが食渣と少量の被毛
- 胃内容はやや乾燥気味でボソボソ



26

強制給餌



左から
ベジタブルサポート (メニオン)
MS ライフケア (イースター)
ハービケア (OXBOW)

加工 1 ml ツベルクリンシリンジ



27

強制給餌



1回 2.0 ml程度 1日 3回



28

症例2

主訴：今朝から急に食欲不振、
排便なし

お腹をべたっとして全然動かない

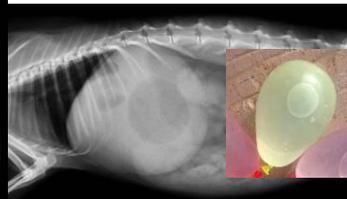
一般身体検査

上腹部の鼓張・低体温、
血圧低下？



29

X線写真



✓ 拡張した胃と円形ガス像



30

急性胃拡張

- ✓ 機能的・物理的閉塞による胃拡大
- ✓ 毛玉、鼠径ヘルニア、異物（ビニル・壁紙・絨毯）腸の一部が閉塞を起こす状態
- ✓ 胃の減圧
- ✓ 外科的対応が必要になるケースも



31

治療

急性の胃拡大による激しい疼痛。水和、鎮痛を主眼に置き、蠕動亢進薬、強制給餌は禁忌

処方例

- ✓ 乳酸リンゲル 50ml/kg
- ✓ プレノルフィン 0.05mg/kg
- ✓ プレドニゾロン 1mg/kg
- ✓ ファモチジン 1mg/kg
- ✓ 安静

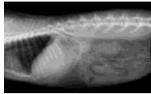
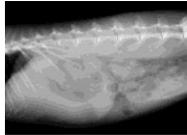
✓ 胃拡張が治まらない場合は胃の減圧処置



32

当院における急性胃拡張のプロトコール

臨床症状およびX線検査にて診断
乳酸リンゲル 50ml/kg/sc or 10ml/kg/iv drip
プレノルフィン 0.05mg/kg/sc
プレドニゾロン 1mg/kg/sc
エンロフロキサシン 10mg/kg/sc



4~8時間後X線検査

採食再開
触診：胃拡張認められず

X線検査：胃拡張継続

全身麻酔下での減圧

胃拡張認められず

約3~4時間後再度胃拡張

メトロプロラミド 0.5mg/kg
ファモチジン 1mg/kg

開腹手術

33



34

うさぎの消化器疾患まとめ

- ✓ 日常にもっとも遭遇する疾患
- ✓ 疾患のタイプを読むことが重要
- ✓ 慢性傾向であるものは、治療に時間がかかる
- ✓ 急性疾患は迅速な対応が必要



35

学校飼育動物で押さえておきたい ウサギの病気3選

消化器疾患

歯牙疾患

生殖器疾患



36

不正咬合の症状

食欲低下・(88%)
下痢・排便減少(33%)
硬いものを食べない(30%)
涎(27%)
口を気にする(25%)
歯ぎしり(22%)
流涙
皮膚の汚れ
元気消失



37

流涎



38

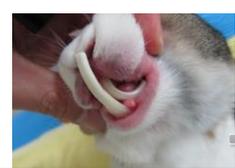
不正咬合の原因

- 遺伝的な要素→ドワーフ種?雄>雌?
- 食餌→繊維不足、咀嚼回数の低下
- 飼育環境・外傷→ケージ咬み、落下



39

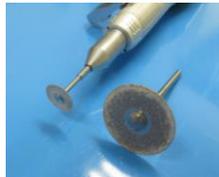
切歯の不正咬合



40

過長切歯の切削のための器具

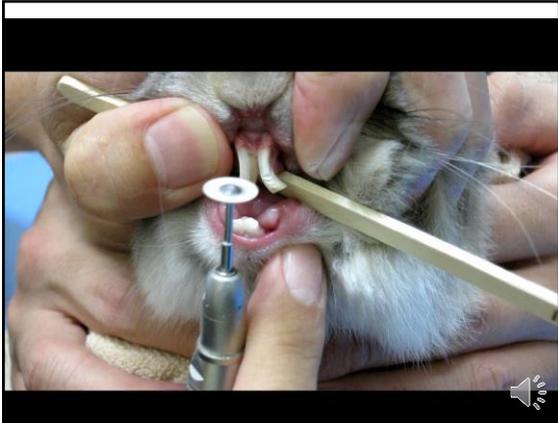
- ✓マイクロエンジン
- ✓ダイヤモンドディスク
(直径1.1~1.3mm 長田メディカル)
- ✓バスタオル



41



42



43

口腔内検査

口腔内検査のチェック項目

- 口腔内の唾液の有無
- 口腔粘膜（舌、頬粘膜、口蓋）の炎症、潰瘍
- 舌側面の癒痕形成
- 臼歯歯冠の形状（棘状突起、歯冠の長さ）
- 歯の色調、動揺
- 排膿の有無

44

口腔内検査（無麻酔下）

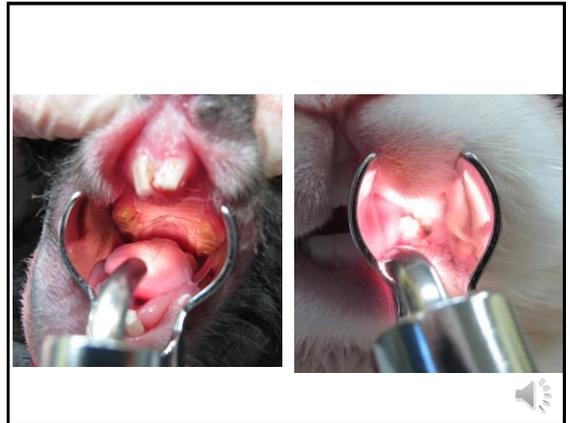


鼻鏡
(ワエルチアーレン社)



ウサギをバスタオルで包み、優しく押さ、鼻鏡を口腔内に挿入する。
ウサギが暴れる、よく見えない場合は麻酔下で確認

45



46

臼歯の不正咬合



頬粘膜損傷

歯冠伸長

47



舌損傷

48

臼歯不正咬合の治療

- 無麻酔下OR麻酔下で行う
- いずれの方法もリスクがあることを説明する
- 統一したコンセンサスなし



49

無麻酔下を考慮するもの

- 病変が軽度（棘縁のみ。本数少ない）
- 食欲廃絶個体
- 高齢
- 全身状態が悪い（高BUN,貧血）



50

無麻酔での臼歯切削の器具



田向式臼歯カッター(シメディコ)
マイクロロングジュール(キリカン洋行)
ツルノ式臼歯カッター(SIGUNI)

※基本ねじ式開口器は使わない

鼻鏡(ウエルチアーレン)



51

無麻酔での臼歯の切削



52

麻酔下での臼歯の切削

- 過長した臼歯が複数、複雑または奥にある
- 性格が大人しくない
- 事前に血液検査、レントゲン検査
- 歯科専門器具による歯根に対して優しい治療
- 1か月1回～2～3か月に1回のペース



53

麻酔下での臼歯切削の器具



開口器
(シメディコ)

開頬器
(シメディコ)

舌圧子
マイクロエンジン
ピペットタイプ



54



55

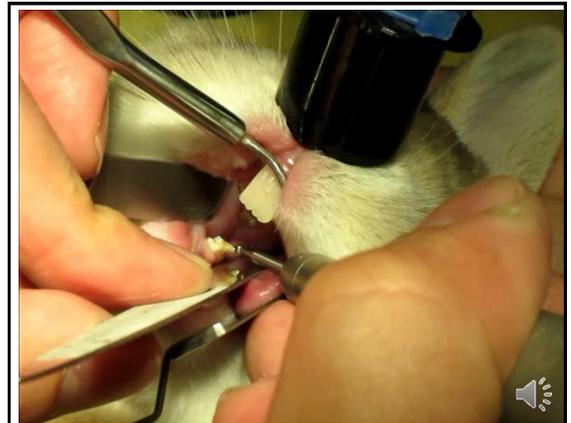


56

臼歯切削のポジション



57



58

学校飼育動物で押さえておきたい ウサギの病気3選

- 消化器疾患
- 歯牙疾患
- 生殖器疾患

59

ウサギの避妊手術はリスクが高いか？

当院で過去3年間177件
 健康個体 92件
 子宮疾患 85件（53件は子宮腺癌）

うち、麻酔および手術中に死亡した例は0件

しかし、子宮疾患のうち食欲不振、貧血、転移があった
 85件中3件は術後2週間以内に死亡

60

子宮疾患

- 子宮内膜静脈瘤・子宮内膜増殖症・子宮水腫・平滑筋（肉）腫瘍癌
- 犬や他のエキゾチック動物と比較して卵巣疾患（顆粒膜細胞腫 卵巣嚢腫など）は非常に稀。
- 若齢（1歳程度）でも発生がある。
- 5歳以上で罹患率約80%



61

臨床症状

- 手術を行った子宮疾患72%で血尿
- 陰部からの出血の9割は子宮疾患

→雌ウサギが血尿、陰部からの出血を起こした場合には、子宮疾患を第一に疑う



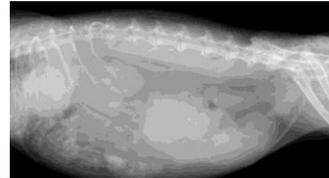
62

診断

当院では、臨床症状、年齢、触診およびX線検査による診断が90%程度 超音波検査は補助的に使用

63

X線ラテラル像



64



65



66

当院でのウサギの麻酔プロトコル

術前30分：ブトर्फアノール

↓
イソフルレン4~5%
BOX吸入麻酔

↓
イソフルレンマスクにて維持

呼吸停止緊急時に
・硬性鏡・気管チューブ
・ラリンゲルマスク

術後
メロキシカム0.2mg/kg
ブプレノルフィン0.05mg/kg

・歯科切開時はなし。
・避妊・骨折手術等：ブプレノルフィン
・ナキウサギ：ブトर्फアノール0.4mg/kg
ブプレノルフィン0.02mg/kg
+
アルファキサロン2mg/kg

通常は、7~9分

胸部を高くする



67



68